

**2018J2** ■順位表■ 第8節終了

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	岡山	19p	+7	9	2
2	大分	17p	+9	16	7
3	山口	17p	+6	17	11
4	町田	16p	+5	13	8
5	東京V	14p	+6	9	3 AΔ
6	熊本	13p	0	13	13
7	金沢	12p	+5	13	8
8	水戸	12p	+4	10	6
9	福岡	12p	+1	11	10 A●
10	横浜FC	12p	-2	9	11 H●
11	新潟	11p	+1	8	7
12	徳島	10p	-2	8	10
13	甲府	9p	0	8	8 H●
14	山形	9p	-2	10	12
15	松本	8p	-1	10	11
16	岐阜	8p	-2	11	13 --- ---
17	栃木	8p	-7	9	16 HΔ
18	大宮	7p	-1	11	14
19	千葉	7p	-4	13	17 AO
20	京都	6p	-5	6	11 A●
21	愛媛	6p	-8	5	13 AO
22	讃岐	5p	-8	6	14

**次回HomeGame**

第11節 vs. ツエーゲン金沢

4/28 (土) 15:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

**Living in Woods**

本庄工業株式会社  
<http://www.honjo-woodream.com/>

**湯麺 戸塚**

店主：戸塚 哲也  
瑞穂市穂積 1596-4  
11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)  
お休み情報 twitter: @Tanmen\_Tozuka  
☆☆☆各務原店 OPEN!!!☆☆☆

today's guest : 徳島ヴォルティス

2017 J2 18勝13分11敗 勝ち点67: 7位

直近の対決と結果

2017/10/14  
J2-37節@長良川

岐阜 0-2 徳島

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	徳島ヴォルティス
2018/04/07 J2-8節@味スタ 東京V 0-0 岐阜	2018/04/08 J2-8節@栃木グ 栃木 1-1 徳島
2018/04/01 J2-7節@長良川 岐阜 3-4 甲府	2018/04/01 J2-7節@鳴門大塚 徳島 0-4 東京V
2018/03/25 J2-6節@ニスタ 愛媛 1-3 岐阜	2018/03/17 J2-6節@デンカS 新潟 1-0 徳島

●新年度となった4/1(日)・第7節。昨年J1とはいえ18位の甲府をホームに迎えたFC岐阜は、前半は試合の流れを掴み先制したものの、後半直後に立て続けに失点して簡単に逆転される。最後は点の取り合いになったが、結局3-4で敗れ、また今季ホームでの初勝利はお預けとなってしまった。続く4/7(土)第8節・アウェイ東京V戦は、現在5位と好調のチームを相手に、ほぼ互角の試合展開が続く。お互いにシュートチャンスを掴むが、最後の精度を欠いたり、相手のビッグセーブがあったりして、結局は0-0でのドロー。無得点は残念だったが、アウェイで今季初の無失点試合という、今後手応えを感じさせる試合結果となった。

この2試合で勝ち点1を積み上げたFC岐阜だったが、順位は13位から16位に後退してしまっただが、まだ8試合を消化したのみ。勝ち点差3に11位(新潟)がいるし、勝ち点差6には5位(東京V)がいる。もちろん最下位(讃岐)とも勝ち点差3しか無く、1試合毎に勝利を目指して、最後まで全力で戦うことが必要だ。

さて、今節の対戦相手は、現在12位の徳島ヴォルティスだ。14年シーズンに四国で初のJ1クラブ、昨年は7位と惜しくもプレーオフを逃したクラブだが、スペイン人リカルド・ロドリゲス監督体制2年目の今年は、開幕2連敗の後に3連勝し、再び3戦未勝利と不安定な戦績が続いている。チームの不調は、未成熟さが主な原因だろう。昨年23得点を挙げてリーグ2位だった渡大生などの主力選手を放出した影響が大きいのか、昨年は総得点71でリーグ2位だったのが、今年は現在8得点で17位タイ。守備は同じく昨年は総失点45でリーグ4位だったのが、現在10失点でリーグ9位タイとなっている。ただし、負けたのは現在の徳島よりも上位のチームばかりだ。

徳島とのリーグ戦での通算対戦成績は、FC岐阜の6勝4分10敗20得点32失点と負け越している。ホーム戦では4勝3分4敗12得点12失点と完全に互角だが、2010年メドウでの2-1の勝利以来、過去6年間で2分4敗2得点8失点と苦杯を舐め続けている。昨年のホーム戦・10/14(土)第37節でも、試合序盤から徳島に押され、シュート19本を撃たれる一方わずかシュート4本に抑え込まれ、0-2での敗戦。今節は、何としても8年ぶりの対徳島戦の、そして今季初の、ホーム戦勝利を掴みたい。

徳島で最も注意すべき選手は、やはり#10杉本太郎だろう。多治見市出身・帝京可児高卒、2012年U-16アジア選手権準優勝・MVPにも選ばれた22歳は、鹿島から期限付き移籍2年目で10番を背負う。開幕からスタメン出場は嬉しいが、今節に限っては活躍を許す訳にはいかない。一方の岐阜では、同じ多治見市出身・帝京可児高ではチームメイトだった#6三島領平が杉本とマッチアップして、抑え込む姿を見たいところだ。また、徳島には昨年の岐阜で1年間、主力選手として活躍した#6シーニョと#27大本祐槻がいる。岐阜の選手たちには是非とも、昨年のFC岐阜を体現していた2人を越える活躍を、僕らのホーム・長良川で僕らに見せて欲しい。また、岐阜には16年には徳島の監督だった長島裕明ヘッドコーチが、徳島には09年・15年に岐阜のコーチだった米田徹ヘッドコーチがいる。古巣を分析して攻略の糸口を探る両参謀の手腕にも注目だ。まだまだ手探りの状況が続いているFC岐阜。そんなチームに自信を与えるのは、結果。特にホーム戦での勝利は、何より自信になるはずだ。そして僕らも、今季のホーム初勝利を待ち望んでいるはずだ。そのためには今節も、選手の気持ちを奮い立たせる拍手と声援を送ろう。時には叱咤激励して、全力で戦う選手を励まそう。最後まで選手を信じて、勝利を信じて、スタジアム全体で選手たちを後押ししよう。今節こそ、「万歳四唱」を。その歓喜の叫びでスタジアムを震わせよう。(ささたく)



「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休:月曜日

**投稿募集!!**

[gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第7節】岐阜3-4 甲府

●お久しぶりの甲府戦。前回の対戦が6年前だってんだから、僕らがJ2参入してから半分近くも対戦してなかったんだねえ……あの頃は笠工出身の荻晃太と片桐淳至がいて、片桐はJで岐阜から上位クラブに移籍した初の選手だったから、なんか親近感があった……って、#4山本英臣は現役16年目でまだスタメンなのか、すごいな(苦笑)。さて、試合展開は……うーむ、やはり今季調子の悪い甲府と言うべきか、攻撃が機能していないような。こちらがやりたいサッカーをやっている、そして例の如くシュートにはなかなか持ち込めない(苦笑)……と思っていたら、#7パウロが技ありのループシュートを決めて先制！おいおいパウロどうしちゃったの！そんなお洒落なゴール決める子だったっけ？(笑)……と、ここまで良かった。しかし、この試合は典型的な「前半と後半は違うチーム」、「サッカーは90分間で勝敗を決めるスポーツ」であることを改めて思い知らされる試合だった。ハーフタイムにしっかりと修正してきた甲府は、後半直後から岐阜に襲いかかり、あっという間に2ゴールを決めて逆転。後半21分に3点目を決められた岐阜は、直後に2点目を返すものの、その直後にゴールを決められ、4失点。その後の試合は膠着状態が続き、アディショナルタイムに入って、何とか1点を返して1点差に追いついたが、そこで力尽き、3-4で試合終了。悔しい敗戦だった。ちなみに今節も、ポゼッション率では岐阜が6割を超えている。特に僕が問題だと感じたのは、1点目と3点目の失点だ。両方とも、相手FWのプレッシャーで岐阜DFがボール処理を誤り、こぼれたボールを奪われて少人数で速攻を仕掛けられて失点している。大木サッカーではDFラインからボールを繋ぐプレーが求められていて、その意識があるからなのかとも思うのだけど、昨年DFラインのイージーな処理ミスで、もったいない失点を何度かしていたような気がする。こういった失点を減らさないと、今後もチームの躍進は危ういのではないかと……そんなことを思うと同時に、「やっぱり強くて早いFWがカウンター仕掛けると決めるよなあ(苦笑)」という、ある意味では羨ましさを感じる試合だった。(ささたく)

●力負け。前半1-0で終わったけど、甲府は天候考えて省エネモードだったかなって観戦仲間と話していたら、案の定後半頭からギア入れ直してガッと来て立ち上がり5分で立て続けに失点……。中でもジュニオール・バホスにいいようにやられていた印象が強い。

そんな中でも1-3にされた後に1点返し、2-4にされた後もう1点返せた事は良かったかな。特に2点目は細かくパス繋いで、真ん中突破して得点と、大木サッカーの理想的な形で得点できたかなと。

ただやはりホームでは勝たないと。そうでないと、初めて観戦の人や観戦回数の浅い人に再び来場してもらうのはなかなか難しい。(岐阜の誇り)

●お久しぶりです、甲府さん。2012以来ですから6年ぶりですか？鳥栖さんと共に、スッカリJ1の常連になってましたね。貴方が昇格した後にいろんなクラブが来てくれました。オリテンとかオリテンとかが(笑)ウチもようやく、全箇所スポンサー様のロゴが入るユニで戦えるクラブになりましたよ。J参入初年度の初対戦の相手は貴方でしたね。どうですか？ウチもJ仕様になってますか？

そんな懐かしい甲府との試合。今まで一度も勝っていない相手に先制し、「昔のオレ達じゃないんだ。」というところを見せてやれるかと思ったんだけど、またしてもまんまとやられた。勝てる試合だった、とは言わない。言わないが、後半の開始5分。サッカーでよく言われるところの「入りの5分」で失敗した。いや、失敗というのは酷かもしれない。ただ、1点ならともかく、立て続けの失点。さらに追加点を決められてから追い上げてもらえな……。選手には申し訳ないけれども、ハーフタイムで指示され、当の選手達も当然それを、甲

府がいきに来るゾということ認識していたはずなのにバタバタしてしまったのが残念でしかたがない。だからこそ、いつもは単にぶっきらぼうなだけの指揮官が相当おかんむりだったのではないのかな？

昨季の9月から勝利のない長良川。とはいえ、選手も入れ替わっているんで、そんなことを気にしているのはスタンドにいる側だけだと思うんだが。届かなかったけど、追撃の2点目なんかゴキゲンな得点だった。もちろん、3点目も。どこの代表に見せてやりたかったよ(笑)。

ただ、なんというか、6シーズンも上の、トップカテゴリーでやってきた経験値っていうのかな？そこらへんの違いはあったように思う。それは選手だけじゃない。甲府の声出し組の密集具合。音量。悔しいけど、ウチとは差があったように感じた。その辺をもっと詰めていかないと。コルリが試合後の総括で言っていたように、選手からパワーをもらうんじゃなく、選手にパワーを、気合を入れられる応援をしないとイケない。劣勢になると声が出なくなる。追撃の一点が入らなると、チャンスが来ないと声が出てこないようではまだまだ足りない。選手達ががんばれるような後押しがしたい。次節の味スタで出来る限りやってきます！(ぐん)

●会場に着いて、「うわっ」と声が出てしまった。お客さんの男女比がいつもと違う！(笑)。アンバサダーに就任した祭nine.の皆さんの就任イベント。おそらく彼らのファンだと思われるお嬢さんの皆様も早くから訪れて屋台村を楽しんでくれた模様。天気もよかったし、よかったよかった。

で、試合なんですけど、「甲府にいいようにコントロールされた」部分もあるし「コントロール出来ない部分があるから甲府は降格してきたのだな」と感じる部分もあった。サッカーは90分の緩急。もちろん選手もアタマではわかっているのだろうけれど、それを具現化出来ない。前半、「これはチームでコーディネートしてるな」と思わせるパウロの見事なコントロール・ループで先制したけれど、後半から甲府は戦い方を変えて来た。というより、変えてはいないのだけどギアを上げてきた。それでサクッと逆転されてしまう。「コントロールされた」と思うのはそこで、しかし2点リードで終盤になってもボールが持てる攻撃アドレナリンの制御バルブが壊れているようにチームでガッツと行ってしまふ。そこにつけこんで、2回も1点差に詰め寄った岐阜も見どころは多かった。最後はスタンドも相当に盛り上がったのは良かった。

でも、やはり「3つゴールを奪っても負ける」という事実は冷静に受け止めたい。『サッカーの試合の設計図』としては間違っていると思う。「負けたけど楽しかった」と「楽しかったけど負けた」。リーグの序盤は黙っているけれど、終盤にモノを言い始めるのは、もちろん後者だから。(吉田鑄造)

## 【第8節】東京V 0-0 岐阜

●前節に18位だった甲府に4点も決められて敗戦し、今節は、通算3ゴールしか決めていない(その3点を決めた試合の結末は言いたくない(苦笑))“あの”味スタで、しかも現在5位・8戦無敗のヴェルディ相手にどんな試合になるのか少し不安……と、あれっ、相手の主力#7アラン・ピニエイロがベンチにも入ってないし、試合前の大木監督インタビューで「守備の練習を重点的に」「しっかりボールに行くところとカバーリングを」って…守備？ホントに？(笑)。

しかし、どうやらその守備練習は、少なくともこの試合に関しては、結果を出したようだった。お互いに中盤での差し合いというか、せめぎ合いというか、そういった状態が続く緊張した試合。決定機を何度か迎えながら決めきれず、決定機を何度か与えながら、決めさせず。アウェイでのスコアレスドロー、勝ち点1。評価としては難しい試合だと思うんだけど、試合内容からすれば、まあ妥当な結果かなと思う。ただし、#30中島賢星！あのDFラインの裏を抜け出してスルーパスを受けてGKと1対1になったあのシーン、あれは



